

東海四県高等学校剣道大会申し合わせ事項（東海選抜）

東海高等学校体育連盟 剣道部

1. 試合について

- (1) 試合は、全日本剣道連盟「試合規則・審判規則及び細則」、全国高体連剣道専門部「申し合わせ事項」及び本大会（東海選抜）「申し合わせ事項」にておこなう。
- (2) 各県代表校8校による32校で、トーナメント方式により試合をおこなう。
- (3) 男女とも、選手を3名以上7名以内、マネージャー1名の合計8名以内を登録する。
登録選手が4名の場合は次鋒を、3名の場合は次鋒と副将を不戦敗とする。
- (4) 試合時間は4分とし、以後引き分けとする。チームの勝敗は、勝者数、総本数の順で決し、勝敗の決しない場合は代表者（出場5選手より任意）による、1本勝負（4分）にて決する。なお、延長は時間を区切らない。
- (5) 1チーム選手7名登録し、オーダーは固定する。補欠との変更をする場合は、所定の選手変更届を試合前に本部に届け出て、補欠と選手との交替の許可をとる。その後変更届を各試合場の試合場主任に提出する。ただし、この場合出場位置の変更及び退場者の再出場は認めない。
- (6) 試合開始時刻に所定の試合場に選手が揃わない場合は、そのチームは棄権と認め相手チームを不戦勝とする。
- (7) チームに欠員が生じた場合は、相手選手を不戦勝として2本を与える。ただし、欠員がチームの半数を越えた場合は、出場できない。
- (8) 登録選手を変更する場合は、監督会議が始まるまでに、所定の登録変更届を提出する。
- (9) 参加チームは、原則として最低1名の審判を推薦し、各県の専門委員長がとりまとめ県単位で審判員を届け出る。

2. 服装・用具について

- (1) 竹刀は破損、補修のない完全な竹刀で、検査・計量（男子480g・女子420g）に合格したものを用いること。なお、先革の太さは、男子2.6cm、女子2.5cm（直径）以上とし、長さは5cm以上とする。万一、不正のあった場合は、その個人を負け（2対0）とし、その大会の出場権を失う。
なお、鎧は固定すること。カーボン竹刀は使用可。
- (2) 選手は必ず垂中央に黒または紺地に白文字で上部に学校を横書きで、下部に姓を縦書きにした「名札」をつけること。
- (3) 面紐は結び目から40cm以内、それ以上長いものや小手紐の長く垂れたものを使用しないこと。

- (4) 靴またはゴム底の足袋の使用は認めない。足袋・踵専用のサポーター、テーピングの使用は、以下の条件で認める。
 - ア. 相手に害を与えない
 - イ. 見苦しくない
 - ウ. 有利にならない
- (5) 選手の服装は、紺（黒）または白の剣道着、袴とする。なお、刺繡等により華美にならないこと。
- (6) 選手は、長さ 70 cm・幅 5 cm の紅白の「目印」を用意し、対戦相手に応じて背中につけること。

3. 作法について

- (1) 選手は全員、剣道着・袴に胴・垂を着用し開会式に参加すること。
- (2) 団体戦の挨拶は、中心点を挟んで 9 歩の間でおこない、審判に近い側を先鋒とする。
- (3) 団体戦選手の入れ替わりは、次の試合者の整列を待たずに終了の礼を済ませ、次の試合者は前の試合の終了の礼が終わった後、直ちに 9 歩の間合いで整列し挨拶をする。剣道具の移動は、初めの礼を済ませた後に速やかにおこなう。
- (4) 正面に対する礼は、大会の第一試合の始めと、決勝戦の前後のみおこなう。また、試合開始は先鋒が立礼の位置に立ち、審判長の笛などの合図によっておこなう。
- (5) 応援は拍手でおこない、声援はしないこと。

4. 審判員及び監督について

- (1) 監督は原則として審判員を兼ねる。
- (2) 男女出場している学校は監督席を空席にしないために、男女それぞれに監督をつける。
- (3) 男女出場の監督審判員で、審判業務に支障をきたさない範囲に限りどちらの監督席についてもよい。
- (4) 審判員は、全剣連の規定の服装で行う。
- (5) 監督の服装は全国高体連申し合わせ事項に準ずる。

※連絡事項

緊急時の連絡は次のとおりとする。

開催県高体連事務局 → 開催県専門委員長 → 各県専門委員長 → 参加校顧問